2022年6月2日（木）15:00-16:30
NII学術情報基盤オープンフォーラム2022

名古屋大学の取り組みから考える RDM支援標準スキル一覧の活用案

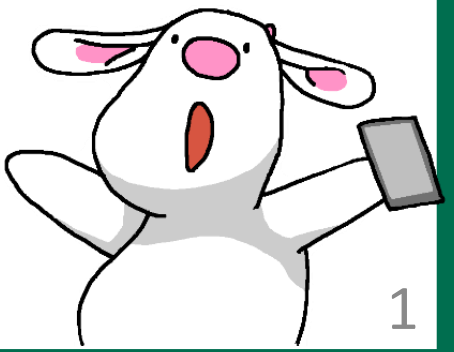
名古屋大学附属図書館
東山地区図書課
東地区図書統括グループ

田中　幸恵

名古屋大学附属図書館
公式キャラクター
メェだい

今日、私からおはなしすること

1. 名古屋大学の研究データ管理支援体制構築状況
2. 名古屋大学で標準スキル一覧表を活用するとしたら？
3. 標準スキル一覧の今後の発展への希望



名古屋大学の研究データ管理支援体制構築状況

- 2020年10月 学術データポリシー策定・公開
  - https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/datapolicy.pdf
  - 以下の5項目＋「解説」で用語の定義、考え方などを説明（一部抜粋）
    1. 目的
    2. 学術データの定義
    3. 学術データの管理等
    4. 大学構成員の責務
    5. 大学の責務

    学術データの管理ならびに公開および利活用を支援する**環境を大学構成員に提供する。**

【学術データポリシー策定に至るまでの細かい経緯等にご興味がある方はこちらをご参照ください】
竹谷喜美江. 『名古屋大学における研究データ基盤整備推進組織の整備について』第3回SPARC Japan セミナー2019
https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2019/20200207.html

『NII研究データ基盤「NII RDC」がいよいよ始まる! : NII×名古屋大学 見えてきた研究データ管理の課題と展望』 NII today. 2021, No. 91
https://www.nii.ac.jp/today/91/2.html

名古屋大学の研究データ管理支援体制構築状況

●大学が提供する支援環境の9要素

1. 学術データ管理のデータプラットフォームを提供
2. 研究データ管理に関する計画や行動の支援
3. 学術データリポジトリの提供
4. 学術データのメタデータ作成支援
5. 学術データ利活用促進支援
6. 学術データに関する契約、法務等の支援
7. 学術データ管理の奨励および実績の評価
8. 学術データに関わる規程・実施要項等制定
9. 学術データの管理、公開、利活用の啓発

※「名古屋大学学術データポリシー解説」を一部要約して記載
https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/commentary/datapolicy_commentary.pdf

名古屋大学の研究データ管理支援体制構築状況

●ポリシー策定、その後

➢2021年3月～学術データ基盤整備WG活動開始

- ✓実務担当者レベルの検討を開始
- ✓各部署が持っている（だろう）スキルに準じて各要素に対する担当を整理（**2021年6月頃**に概ね確定）
- ✓2021年度から2023年度までの３年間に実施する具体的な施策と、その主たる実施部門を「名古屋大学学術データ基盤整備基本計画」として制定（2022年3月）
- ✓基本計画に則って各部署で対応案を検討中
  具体的に動き始めているプランもある

イマココ

スキル一覧の公開はここまで決まった後！

名古屋大学で標準スキル一覧表を活用するとしたら？

名古屋大学における学術データ基盤の要素と担当

	研究データ管理の要素	関係する部署								備考	補足
		執行部	学術研究・産連本部	研究協力部	IR戦略室	附属病院	教育推進部	附属図書館	情報連携推進本部		
①	**学術データ管理のデータプラットフォームの提供**										
a	データ基盤システムの利用モデルの提示と普及					○			◎		NIIとの連携、ストレージの調達
b	学外共同研究者とのデータ共有環境の整備								◎		認証基盤の整備
c	学術データ用ストレージの将来設計					○			◎		利用者層を想定したストレージの在り方
②	**学術データ管理に関する計画や行動の支援**										
a	公的資金のデータ管理計画（DMP）の動向調査			◎							科研費の動向ウォッチ
b	研究者によるDMP作成と推進の支援			◎				○	○		AMED, JST, NEDO 等の事例を参照
③	**学術データリポジトリの提供**										
a	学術データリポジトリの運用と充実						○	◎	○		JAIRO Cloud の活用、公開データの発掘
b	学術データ公開の体制と仕組みの整備						○	◎	○		人材育成、ストレージ・公開手順の整備
④	**学術データのメタデータ作成の支援**										
a	学術データのメタデータスキーマの整備						○	◎			JPCOARメタデータスキーマの利用
b	メタデータ付与の仕組みの整備							◎	○		メタデータ付加作業環境の整備
⑤	**学術データの利活用の促進と支援**										
a	共同研究・産学連携・アウトリーチでの利活用支援		◎					○	○		学外との産学連携活動での利活用の促進
b	教材など授業コンテンツの利活用促進						◎	○	○		学内での共有、学外者の利活用の促進
c	学術データカタログ（名大版）の作成と利用		○				○	◎	○		学術データの案内、リポジトリ等と連携
⑥	**学術データに関する契約、法務等の支援**										
a	学術データに関する契約・法務の支援		○			○				法務室等	ライセンシング契約など
⑦	**学術データ管理の奨励および実績の評価**										
a	学術データの公開・利活用の評価・報酬制度の設計	◎			○						教員・研究者の評価指標
b	学術データの作成・公開情報の収集と利用				◎						教員プロフィールデータベースの活用
⑧	**学術データに関する規程・実施要項等の策定**										
a	学術データの保存・管理に関する学内規程の整備	○					○		◎	法務室と連携	10年保存ルールとの関係整理 教員・研究者の退職・異動への対応
b	学術データの保存・管理に関する部局内規程の整備					◎					部局内の管理規程整備の事例形成
c	学術データの知財管理の規程整備	◎	○				○				データの権利・ライセンシングの規程
⑨	**学術データの管理、公開、利活用の啓発**										
a	学術データの扱いに関するリテラシー教育					○	○	○	○		大学院共通教育科目
b	学術データポリシーに関わる取り組みの普及	○	○	○	○	○	○	○	○		広報・講演会・研修・ワークショップ

名古屋大学で標準スキル一覧表を活用するとしたら？

- 大学全体の取り組みをマネジメントする立場なら・・・

名古屋大学における学術データ基盤の要素と担当

	研究データ管理の要素	関係する部署								備考	補足
			学術研究基本部	研究部	情報基盤センター室	附属図書館研究開発室	教育部	附属図書館	情報基盤センター本部		
①	学術データ管理のデータプラットフォームの提供										
	a データ基盤システムの利用モデルの提示と普及					○			◎		NIIとの連携、ストレージの調達
	b 学外共同研究者とのデータ共有環境の整備								◎		認証基盤の整備
	c 学術データ用ストレージの将来設計					○			◎		利用者層を想定したストレージの在り方
②											
				◎							科研費の動向ウォッチ
				◎				○	○		AMED, JST, NEDO 等の事例を参照
③											
							○	◎	○		JAIRO Cloud の活用、公開データの発掘
							○	◎	○		人材育成、ストレージ・公開手順の整備
④											
											JPCOARメタデータスキーマの利用
											メタデータ付加作業環境の整備
⑤											
											学外との産学連携活動での利活用の促進
	b 教材など授業コンテンツの利活用促進										学内での共有、学外者の利活用の促進
	c 学術データカタログ（名古屋）の作成と利用										学術データの案内、リポジトリ等と連携
⑥											
			○			○				法務室等	ライセンシング契約など
⑦											
		◎			○						教員・研究者の評価指標
					◎						教員プロフィールデータベースの活用
⑧											
		○					○		◎	法務室と連携	10年保存ルールとの関係整理 教員・研究者の退職・異動への対応
						◎					部局内の管理規程整備の事例形成
	c 学術データの知財管理の規程整備	◎	○				○				データの権利・ライセンシングの規程
⑨	学術データの管理、公開、利活用の啓発										
	a 学術データの扱いに関するリテラシー教育					○	○	○	○		大学院共通教育科目
	b 学術データポリシーに関わる取り組みの普及	○	○	○	○	○	○	○	○		広報・講演会・研修・ワークショップ

- 学内ステークホルダの抽出
- 支援要素の洗い出し（事項の列挙・取捨選択の参考、漏れや抜けのチェック）
- 役割分担決定・明確化の参考
- 取り組み内容の見直し、将来の展望を検討する際の参考

名古屋大学で標準スキル一覧表を活用するとしたら？

●現場の人間の感想＝「戸惑い」

- 内容が盛りだくさん過ぎて何が何やら…
- これを全部やれる人はいるのか…（反語）

●実務担当者レベルで活用するなら？

➢まずは自分が関わるところを眺める

- 業務をベースに整理されているので、イメージは比較的しやすいのでは？
- 自分事として興味関心をもつための材料に

名古屋大学附属図書館で予定している取り組みや今後の課題における活用案

- 【要素④】学術データのメタデータ作成支援
  - 達成目標：大学構成員が機関リポジトリで公開する学術データのメタデータ作成を支援する
  - 施策：学術データのキュレータの育成
    - 研究者自身が、公開するデータにデータの利活用と長期保存を見据えたメタデータを付与できるようにサポートする人材を図書館で育成

→どう参考にできそう？

✓何をどこまでできるようにすべきか

✓どんなスキル・能力が必要か

✓育成プラン策定

S30140101～S30140501を中心に主に「研究後」のスキルを想定

名古屋大学附属図書館で予定している取り組みや今後の課題における活用案

- 【要素⑨】学術データの管理、公開、利活用の啓発
  - 達成目標：学術データの管理、公開、利活用に関する認識を大学構成員に涵養するための啓発プログラムを整備する。
  - 施策：学術データの公開促進を目的とした大学構成員向けガイダンスを実施する。

必要なスキルは図書館員としてはなじみがある
（S40160101～S40160204）

→どう参考にできそう？

- ✓ ガイダンスの内容検討にも使える
- ✓ 支援が必要なこと
  ≒研究者が自分の研究データ管理を本気でやるならやらないといけない事柄

標準スキル一覧の今後の発展への希望

- 現場の人間にももう少し分かりやすくなることを期待
  - 項目の網羅性は捨てがたい…
  - 「業務を担いうる職種」の○がもう少し絞り込まれるとよいかも？
    - 責任を持つべきところを絞り込み、「うちでなくてもよい」という逃げ道を断つ
    - 「これ（だけ）ならできる」「これができるようにしよう」と思えるように

- 支援者の各所属部門向けに切り出して、スキルと対応した学習教材ができてくることを期待
  - JPCOAR教材『研究データ管理サービスの設計と実践. 第2版』（2021年公開）https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/607
  - AXIESで情報基盤担当者向け教材検討中

ありがとうございました